

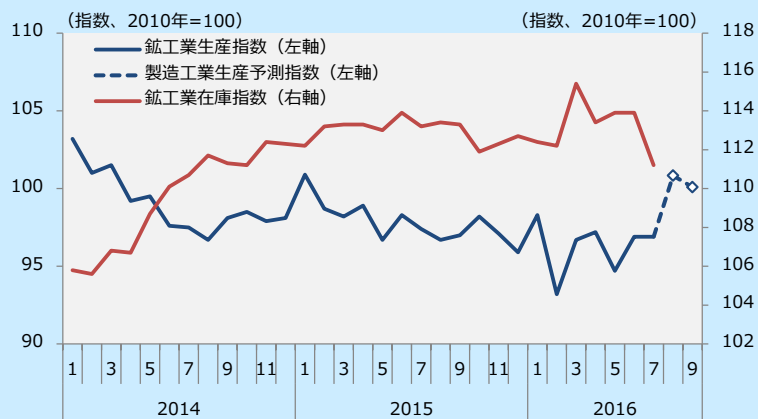
日本：鉱工業生産指数（2016年7月）

—生産指数は、横ばい圏内で推移—

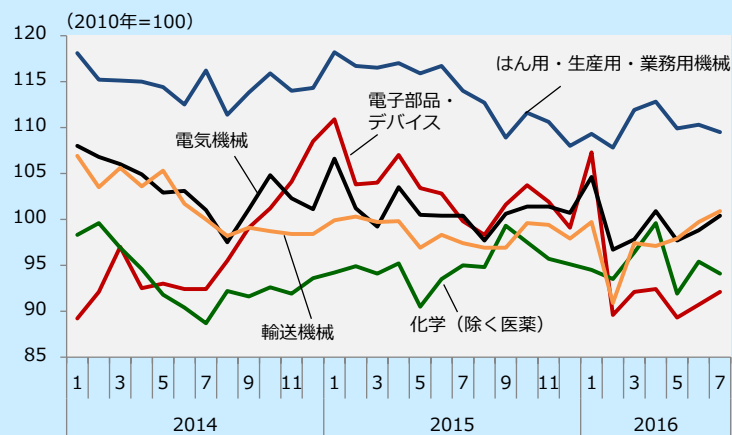
MRI Daily Economic Points

August 31, 2016

図表 鉱工業生産／在庫指数



図表 業種別の生産指数



評価ポイント

2016年7月の結果

- 2016年7月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比+0.0%の横ばいとなった。また、出荷指数は同+0.9%と2ヶ月連続で上昇した。
- 7月の生産の業種別内訳をみると、輸送用機械(同+1.2%)が挽回生産もあり堅調な伸びとなった。またスマートフォン向けを中心に電子部品・デバイス(同+1.5%)が上昇、電気機械(同+1.6%)も上昇した。一方で、先月大きく上昇した化粧品の反動減もあり、化学(同▲1.4%)が低下。また、はん用・生産用・業務用機械(同▲0.7%)も低下した。
- 7月の在庫指数は、季調済前月比▲2.4%となり、大きく低下した。高止まりが続いていた電気機械の在庫調整の進捗を主因に、3ヶ月ぶりの低下となった。
- 製造工業生産予測調査によると、8月は季調済前月比+4.1%と大きく上昇した後、9月は同▲0.7%の低下を予測している。8月の上昇には、情報通信機械やはん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイスなどが寄与している。経済産業省によると、7-9月の鉱工業生産の先行き試算値は、予測調査対比で下振れる傾向を踏まえ、季調済前期比同+0.1%の横ばいとなっている。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、年明け以降、一進一退で推移している。
- 生産の先行きは、内外需要の弱さや在庫調整圧力から、当面横ばい圏内で推移するとみられる。しかし、年度後半以降は、海外経済が緩やかに持ち直すこと、また雇用・所得環境の改善による消費の緩やかな回復も見込まれることから、徐々に持ち直しに向かうだろう。
- 一方、年初来の円高が一段と進行した場合や、中国の経済成長が想定以上に鈍化した場合、生産が下振れる可能性には注意が必要だ。